

令和4年度 事前アンケート結果

コロナで中止となっていたが、再開した活動または再開予定の活動について		
基幹型 地域包括支援センター	内容	せとらカフェやすらぎ
	工夫	若年性認知症の方のやりたいことを基に、屋外でできる内容を検討し、やすらぎ会館南庭に小さな畑を開墾した。
	今後の課題	認知症の進行等により、当事者の参加が減少している。 認知症本人交流会やグループホームとの連携を進め、当事者同士の交流も増やしていく。
瀬戸市社会福祉協議会	内容	わがまち「よりどころ」プロジェクト46か所中34か所活動中。 (R4.3.31現在) ほのぼのサロン（ボランティア関連） R2:1回 R3:5回 R4:7回（予定）
	工夫	体調チェック、手指消毒、ソーシャルディスタンス。 「よりどころ」へ感染予防グッズを配布。 感染予防対策のチラシを作成し配布した。
	今後の課題	コロナ再拡大時のつながりの維持 正しい感染予防対策への知識習得（感染への意識が低下している）
瀬戸市民生委員 児童委員協議会	内容	民生委員児童委員協議会の活動の多くはコロナ禍で制限されることはなかったと思われますが、毎月開催する地区民生委員児童委員協議会については会場の使用制限や縮小などで連絡事項や見守り調査には配慮が必要でした。
	工夫	コロナ禍で活動制限されているときは、文書連絡、書面審議、または電話を活用しました。（訪問してもらいたくない人もいる） とは言いながら、調査や訪問にはコロナ禍を考えると慎重にならざるを得ず、活動が停滞したことは否めません。
	今後の課題	今後は、台帳調査、訪問調査などは対面だけでなく文書、電話等の活用と自治会で整備している町内の災害支援台帳などの利用などで要支援者を支えていくことが肝要。（自治会との調整が必要） 個人情報保護を云々している時ではない。
瀬戸市社会福祉協議会 （西陵地区社協）	内容	「歌の広場」9月より第3水曜日に再開予定。 歌唱指導の先生によるトークとピアノ伴奏での歌。
	工夫	人数制限必要のため、申込方式で先着40名の募集、6月の広報に掲載。 室内ではマスク着用、先生はピンマイク使用。
	今後の課題	熱中症対策、冷房をかけて窓も開放。水分補給用のお茶等は各自持参。
NPO 法人 瀬戸地域福祉を 考える会まごころ	内容	買い物ツアー等の他、居場所（ぶらっと）での活動。 カラオケ、コーラスは現在も行っていない。
	工夫	買い物ツアーは今後移動サービス（福祉運送）として行う予定。
	今後の課題	担い手不足。

瀬戸市シルバー 人材センター	内容	中止とせず、感染対策をして小規模で行っている。 市が主催している健康福祉フェア等、ボランティア活動にも参加していきたい。
	工夫	
	今後の課題	

高齢者が各団体での集まりなど社会参加をするにあたり、課題となっているもの

○基幹型地域包括支援センター

- ・免許返納後の移動手段（コミュニティバス停留所の位置・間隔）
- ・担い手の高齢化、後継者がいない
- ・集会所のない地域もある。
- ・情報が行き届かない人がある。
- ・屋外で集う場合、トイレがないこともある。
- ・認知症のある人との関わりを拒む人もいる。
- ・認知症のある本人が一人で出かけることを心配する周囲の人・家族の思い
- ・認知症のある本人も周囲の目を気にして出かけない人もいる。

○瀬戸市社会福祉協議会

- ・社会参加のための移動手段
- ・社会参加のための動機付け

○民生委員児童委員協議会

- ・高齢者の社会参加については各地区の民生委員児童委員協議会や地区社協の活動がありますが、コロナ禍においては、ほぼ中止でした。
- ・高齢者対象の福祉メニューはサロンやよりどころ、「園児とのふれあい」などがありますが、参加者の固定化や減少、義務感で参加など問題は少なくない。役員でお膳立てするのではなく参加者の要望などを取り入れて、参加者本位のメニューを考える必要がある。利用者に企画立案していただくことが必要になってきた。（社協の管理下で）

○瀬戸市社会福祉協議会（西陵地区社協）

- ・自治会会員を順番に組長が回ってくることを理由に退会するとの声が多くあり、今後の自治会運営を高齢になってもできる工夫をしていく必要がある。

○NPO 法人瀬戸地域福祉を考える会まごころ

- ・移動手段